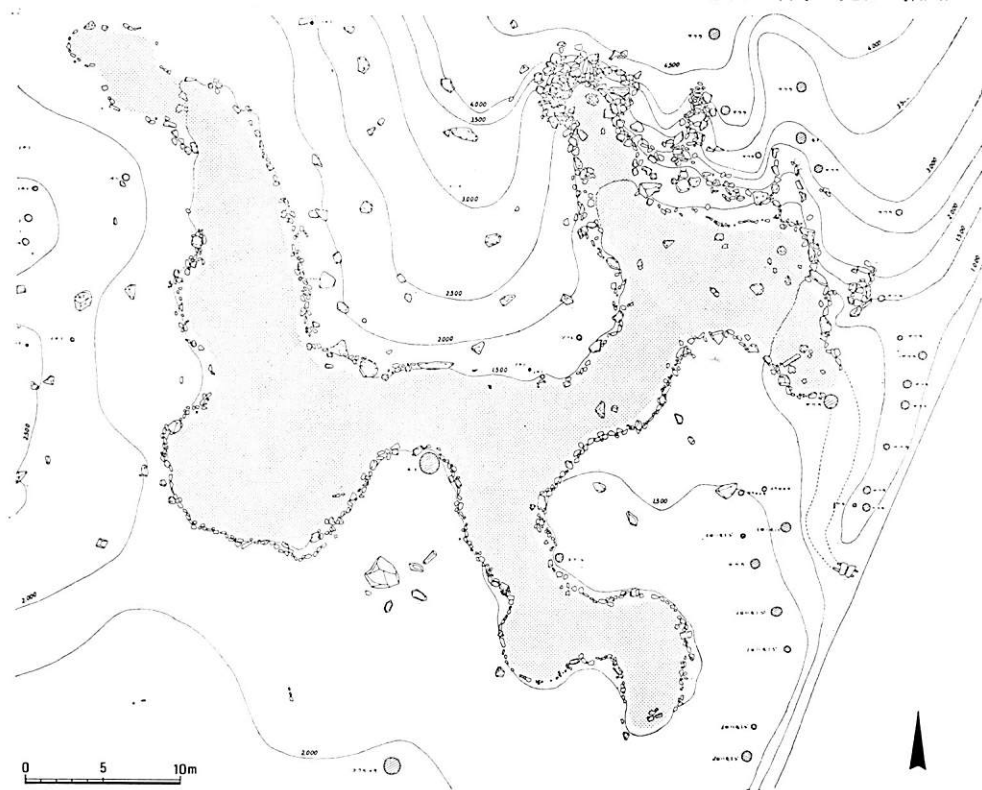


弘前城三の丸庭園遺構の調査

埋蔵文化財センター・平城宮跡発掘調査部

弘前市の依頼により弘前城三の丸に遺る庭園遺構の調査を行った。庭園遺構は三の丸東地区中央部で二の丸内東門に近い場所にあり、北に小高い築山、南西から南に屈曲する枯池をもつ。池が築山に向って北方に入り込む位置に角柱型の自然石を立てた枯滝石組が露出しており、池汀護石、池内に敷き並べられた川原石、築山内の景石が随所で露出していた。調査内容は池庭の実測のための覆土の除去と平板測量である。覆土の除去に9月6日から8日午前中までかかり、午後から10日午後3時まで測量を行い下図のように成果を得た。この庭についての史料としては元禄12(1699)藩主信政が世子信重のために広い庭をもつ邸を三の丸に設けたとあるのが初見であり、他には文化7(1810)江戸の庭師を招んで改庭したとの記録があるのみである。なお市の方で別に調査団をつくり、池庭南方の屋敷跡を主対象とした発掘調査が10・11月に実施されたが後世の攪乱がひどく顕著な遺構を検出し得ていない(昭和54年度史跡弘前城跡環境整備事業三の丸発掘調査報告概報書 弘前市・弘前市教育委員会参照)。築山およびその裾部については次年度の調査が予定されており、当研究所も指導に当ることになっている。

(安原 啓示・光谷 拓実)



弘前城三の丸庭園実測図